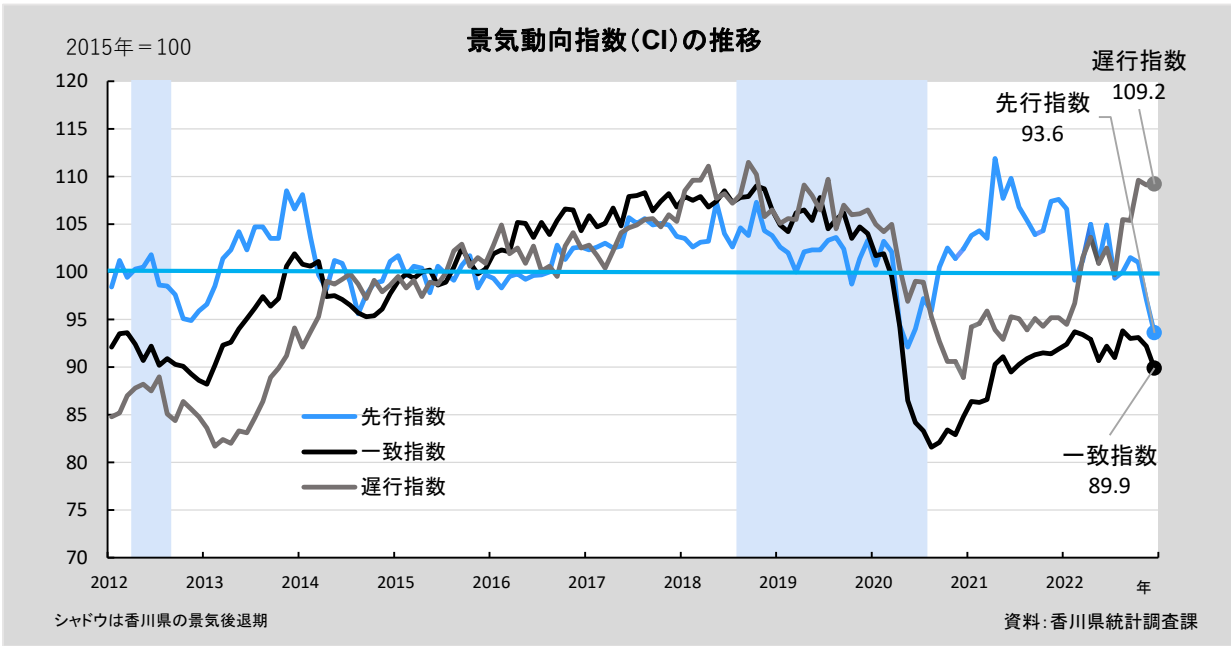


| | |
|------|------------------|
| 概況 | 景気は、緩やかに持ち直している。 |
| 個人消費 | 緩やかに持ち直している。 |
| 住宅投資 | 低調に推移している。 |
| 公共投資 | 減少している。 |
| 生産活動 | 弱い動きとなっている。 |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している。 |
| 貿易 | 輸出、輸入ともに減少している。 |
| 観光 | 持ち直している。 |

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月連続下降



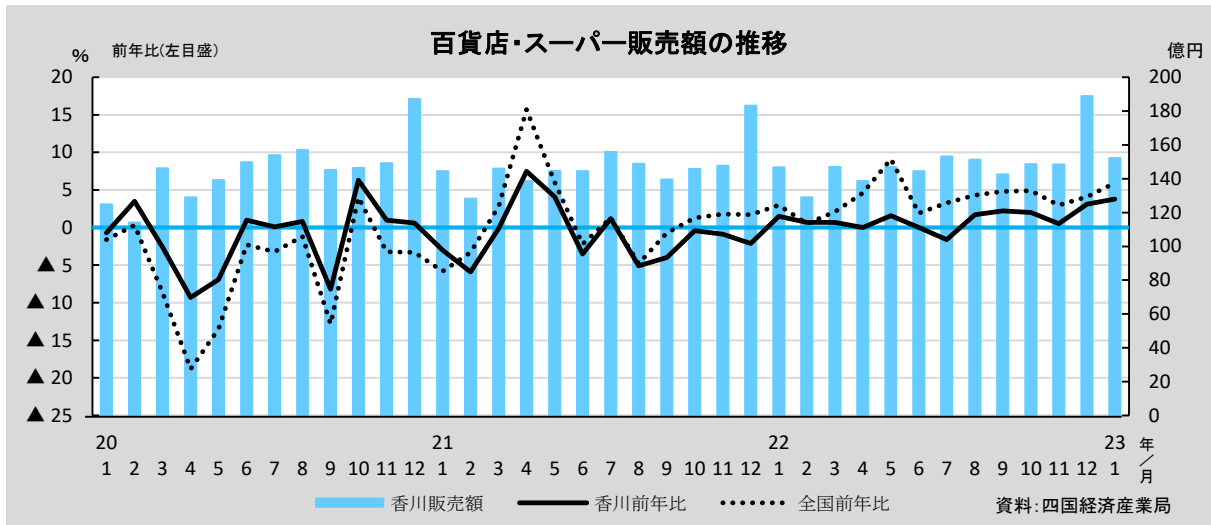
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は89.9（前月比▲2.3ポイント）と2カ月連続で下降。CI先行指数は93.6（同▲3.5ポイント）と3カ月連続で下降。CI遅行指数は109.2（同+0.1ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業生産指数、建築着工床面積、雇用保険受給者実人員等が下降に寄与したことにより、前月から2.3ポイントの下降となった。

| | 先行系列 | 寄与度 | 一致系列 | 寄与度 | 遅行系列 | 寄与度 |
|----------------|-------------|--------|------------------|--------|-------------|--------|
| 採用 景気 指標 | 1 新規求人数 | ▲ 0.54 | 1 雇用保険受給者実人員 | ▲ 0.46 | 1 常用雇用指数 | 0.83 |
| | 2 乗用車新車登録台数 | ▲ 0.07 | 2 有効求人倍率 | ▲ 0.33 | 2 有効求職者数 | 0.04 |
| | 3 鉱工業在庫率指数 | ▲ 1.58 | 3 所定外労働時間指数 | 0.18 | 3 消費者物価指数 | 0.12 |
| | 4 生産財生産指数 | ▲ 0.80 | 4 鉱工業生産指数 | ▲ 1.05 | 4 家計消費支出 | ▲ 0.63 |
| | 5 新設住宅着工戸数 | ▲ 1.12 | 5 鉱工業出荷指数 | ▲ 0.01 | 5 鉱工業在庫指数 | ▲ 1.61 |
| | 6 金融機関貸出残高 | 0.24 | 6 建築着工床面積 | ▲ 0.95 | 6 法人事業税調定額 | 1.06 |
| | 7 消費者態度指数 | 0.64 | 7 百貨店・スーパー既存店販売額 | 0.35 | 7 第3次産業活動指数 | 0.57 |

●百貨店・スーパー販売額

6 カ月連続増加 ↑

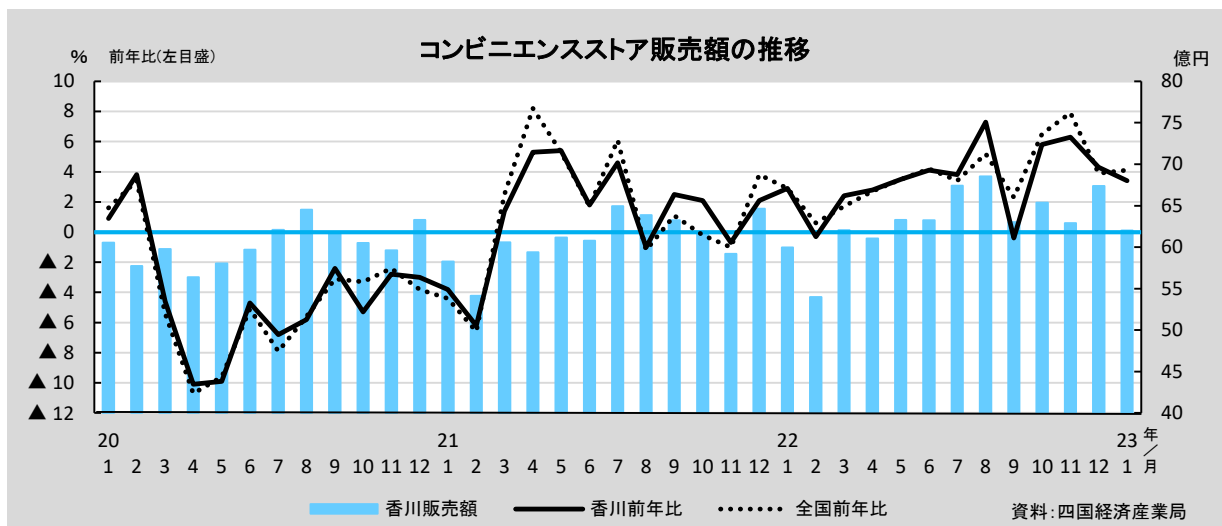


| 2023/1月 | 衣料品 | 身の回り品 | 飲食料品 | 家具 | 家庭用 電気機械器具 | 家庭用品 | その他の商品 | 食堂・喫茶 | 合計 |
|----------|---------|--------|-----------|--------|---------------|--------|---------|-------|-----------|
| 販売額(万円) | 117,224 | 74,556 | 1,091,926 | 1,926 | 6,079 | 68,396 | 162,119 | 456 | 1,522,682 |
| 前年同月比(%) | 9.5 | 19.6 | 0.8 | ▲ 33.1 | ▲ 6.5 | 152.2 | ▲ 9.0 | 9.1 | 3.8 |

1月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は152.3億円で、前年同月比+3.8%と6カ月連続で増加した。「衣料品」は同+9.5%、「身の回り品」は同+19.6%と好調だった。また、内食・中食傾向で調理器具など「家庭用品」が同+152.2%と大幅に伸びた。

●コンビニエンスストア販売額

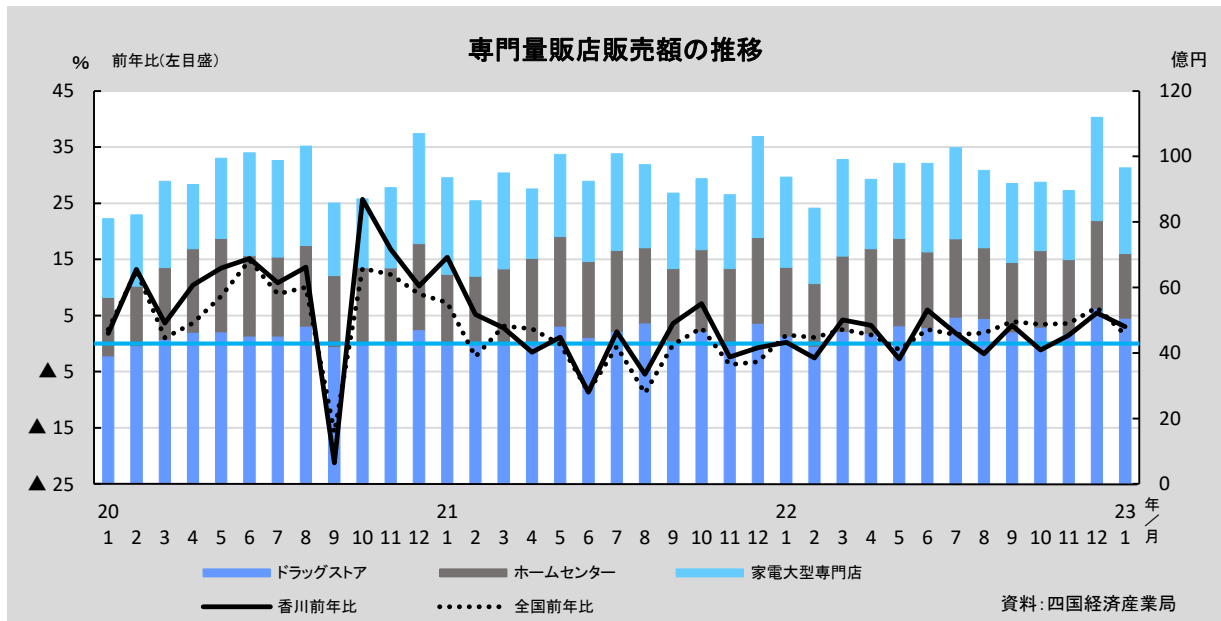
4 カ月連続増加 ↑



1月のコンビニエンスストア全店(409店)の販売額は62.0億円で、前年同月比+3.4%となった。商品価格の上昇、販売促進の取り組みの効果などで販売額が増加したほか、カウンターコーヒーやフライヤー商品などが好調で、4カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

3 カ月連続増加 ↑

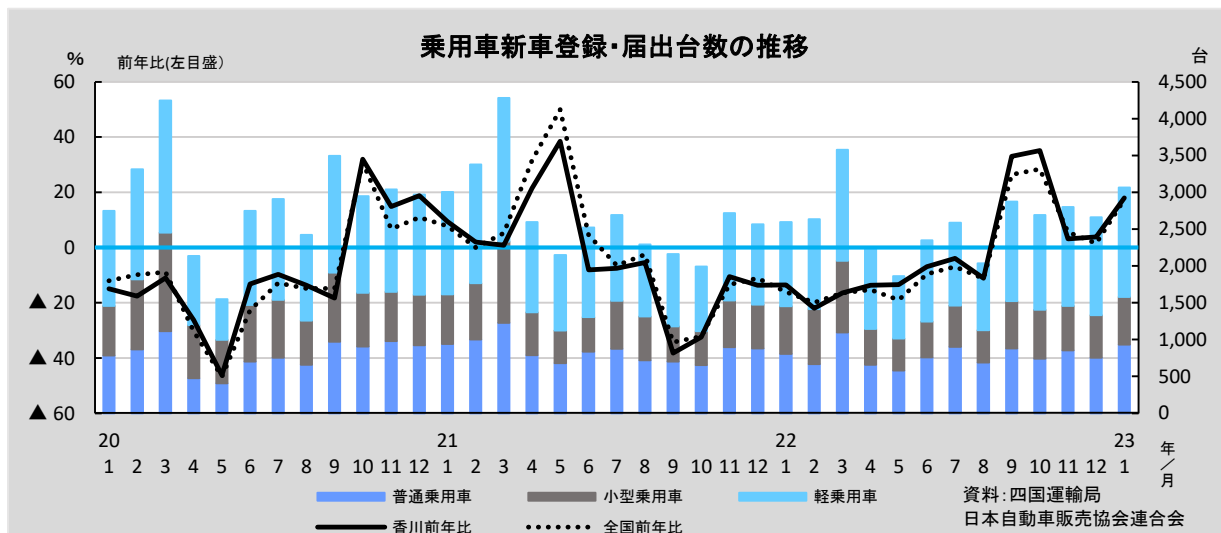


1月の専門量販店全店（212店）の販売額は96.5億円で、前年同月比+3.0%と3月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、気温高での季節家電の需要減少、テレビも高価格帯以外は低調なことから、販売額は26.1億円で前年同月比▲5.2%、**ドラッグストア**（137店）は、ヘルスケア商品が伸びたほか、食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は50.6億円で同+12.2%となった。**ホームセンター**（46店）は、入店客数の減少や、節約志向で日用消耗品の動きが悪く、販売額19.7億円で同▲5.9%となった。

●乗用車新車販売台数

5 カ月連続増加 ↑



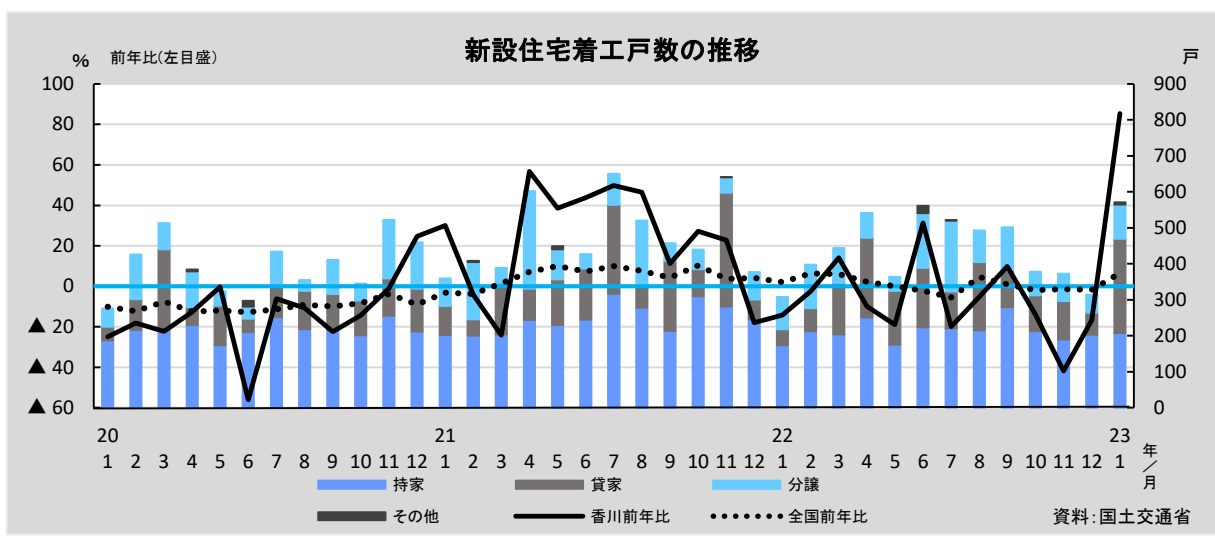
1月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,065台で、半導体不足や部品調達難の影響が和らぎ、前年同月比+18.0%と5カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+15.5%、小型乗用車で同+0.2%、軽乗用車で同+29.9%となった。

住宅投資 低調に推移している

●新設住宅着工

4カ月ぶり増加 ↑

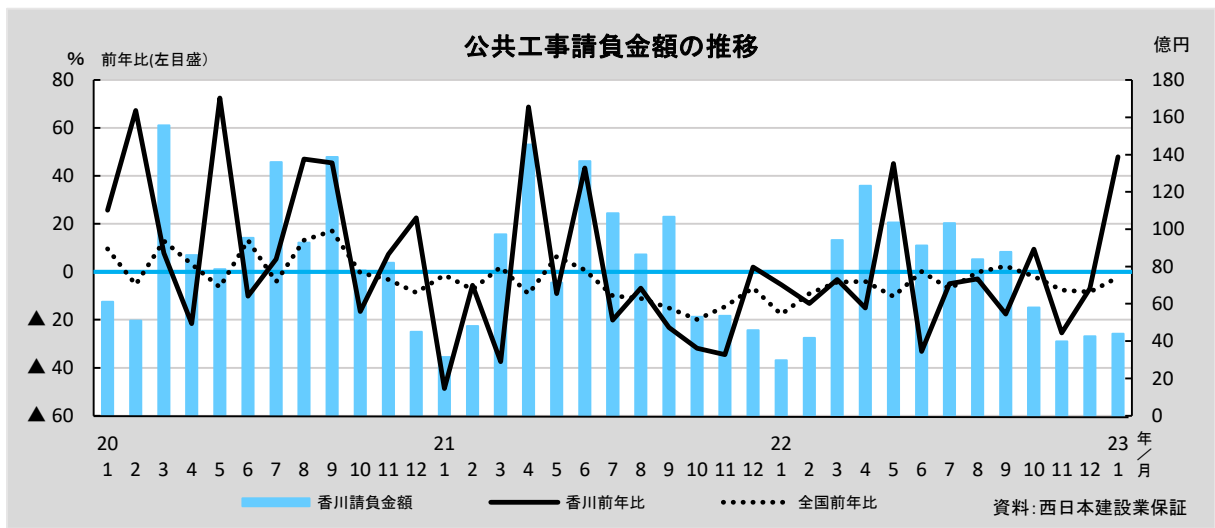


1月の新設住宅着工戸数は571戸で、前年同月比+85.4%と4カ月ぶりに増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+19.0%、**貸家**で同+497.7%、**分譲住宅**で同+5.6%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額

3カ月ぶり増加 ↑



1月の公共工事請負金額は44.0億円で、前年同月比+48.0%と3カ月ぶりに増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+385.7%、**県**で同+236.0%、**市町**で同▲41.3%となった。

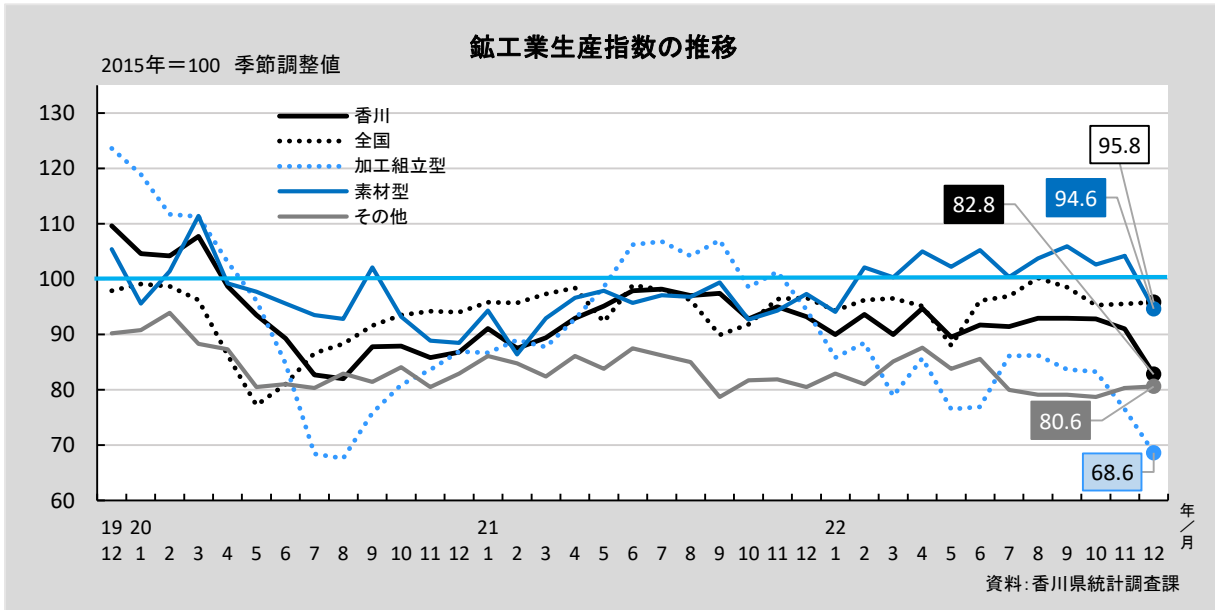
2022.4月～2023.1月の累計では前年同期比7.1%減少している。

生産活動

弱い動きとなっている

● 鉱工業生産指数

3 カ月連続低下 ↓



12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は82.8（前月91.0）となり、3カ月連続で低下した。

業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金など）は前月比▲20.8%、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオード、開閉制御装置など）は同▲14.3%と低下した。

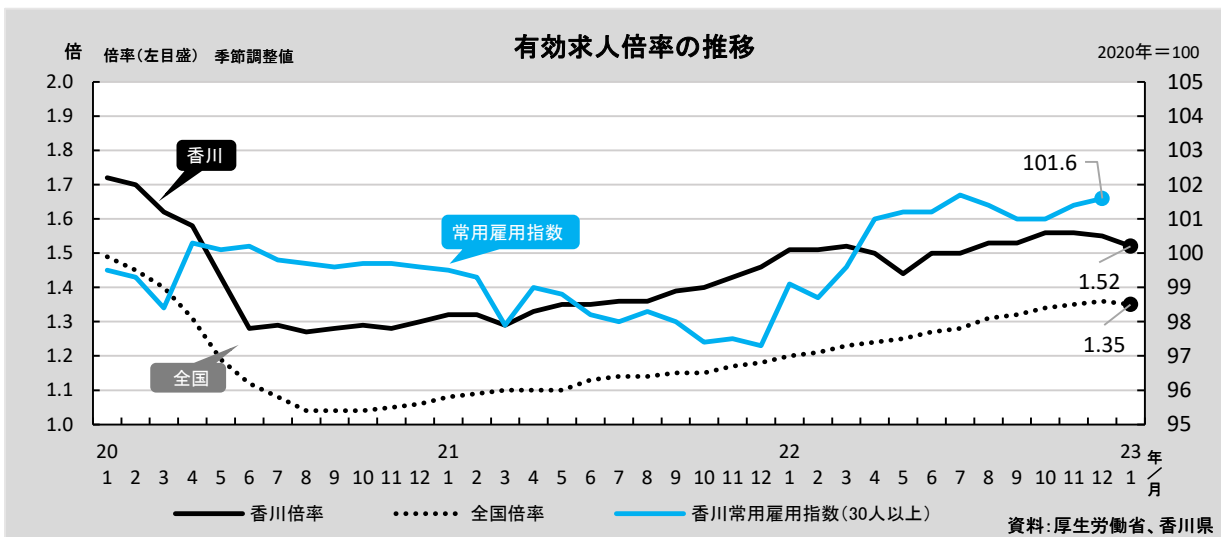
一方、その他の食料品工業（肉・肉製品、小麦粉など）は同+1.8%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2 カ月連続低下 ↓



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.52倍（全国14位）と前月より0.03ポイント低下した。

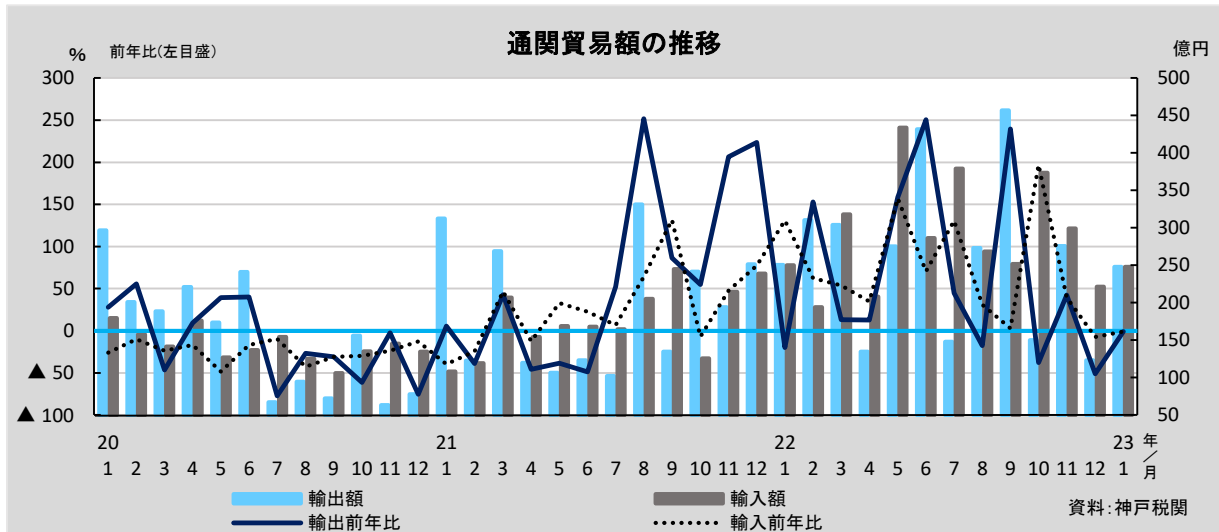
新規求人（原数値：前年同月比）は、サービス業（他に分類されないもの）、建設業、複合サービス事業等で減少し、全体で▲2.3%と22カ月ぶりに減少した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.6となり、前年同月比は10カ月連続で増加した。

| 職業別常用有効求人倍率 | 倍 |
|--------------|------|
| 専門・技術的職業 | 2.60 |
| 事務的職業 | 0.83 |
| 販売の職業 | 2.57 |
| サービスの職業 | 3.46 |
| 生産工程の職業 | 2.68 |
| 輸送・機械運転の職業 | 2.20 |
| 建設・採掘の職業 | 6.82 |
| 運搬・清掃・包装等の職業 | 1.23 |

貿易

輸出、輸入ともに減少している



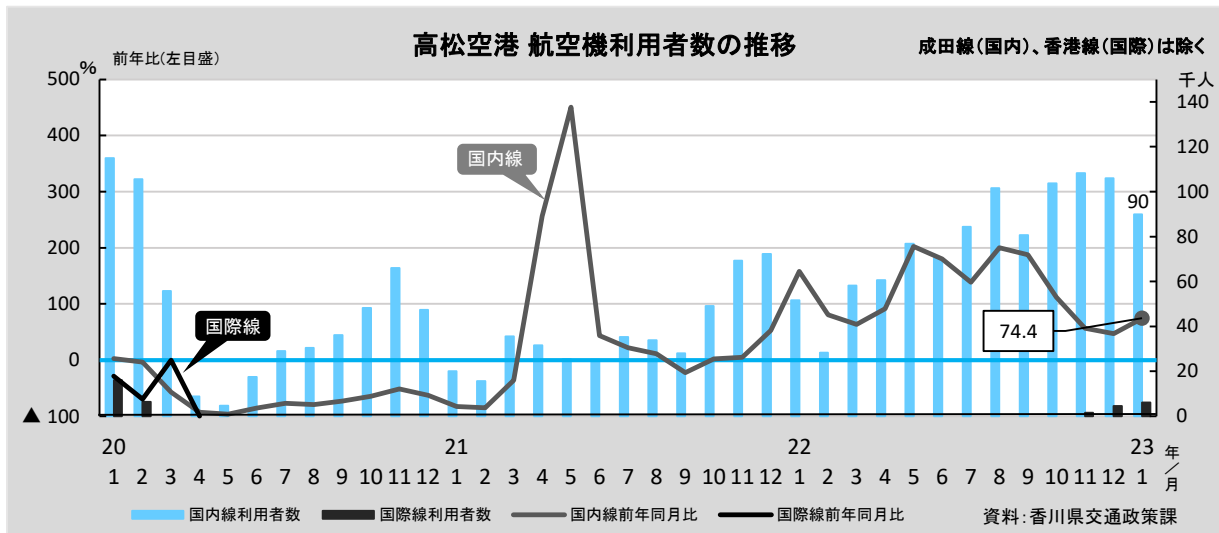
1月の輸出額は前年同月比▲1.1%の247.9億円、輸入額は同▲0.8%の248.0億円となり、差し引き0.1億円の入超となっている。

輸出は、石油製品輸出額が前年同月比▲78.2%の24億円となった。輸入は、石炭輸入額が同▲45.8%の73億円となった。

交通

国内線は16カ月連続増加、国際線は台北線運航再開

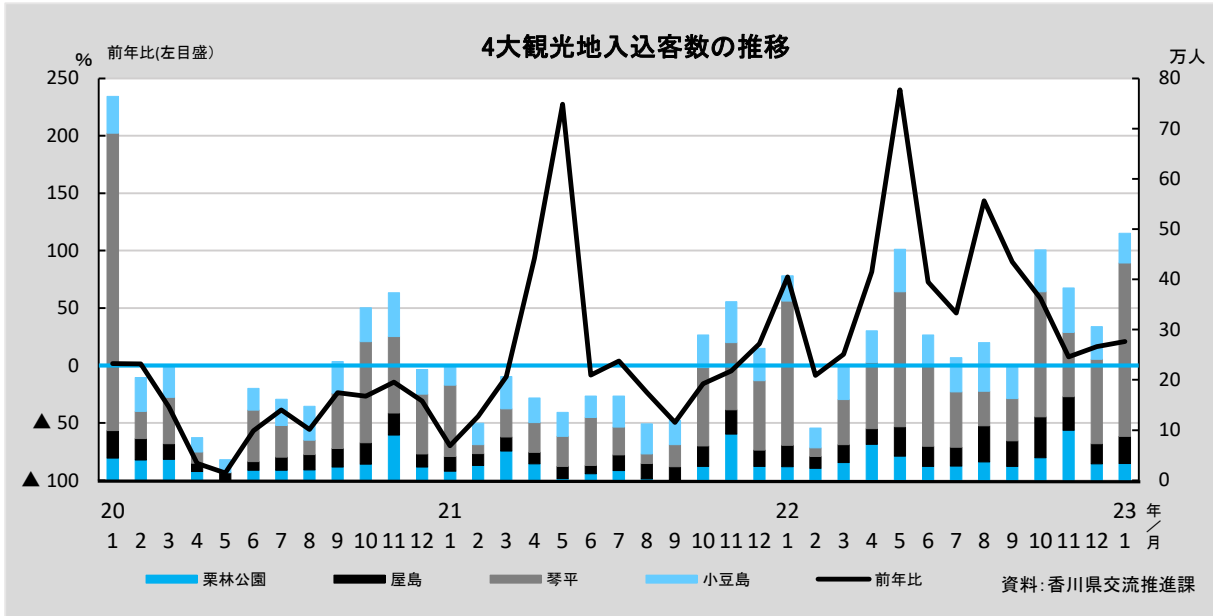
●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が89,947人(前年同月比+74.4%)となり、16カ月連続で増加した。羽田線は83,060人(同+67.8%)、那覇線は6,887人(同+232.2%)となった。コロナ禍前の2020年同月比では▲21.7%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は、ソウル線は4,191人、1月19日から運航を再開した台北線は1,849人となった。

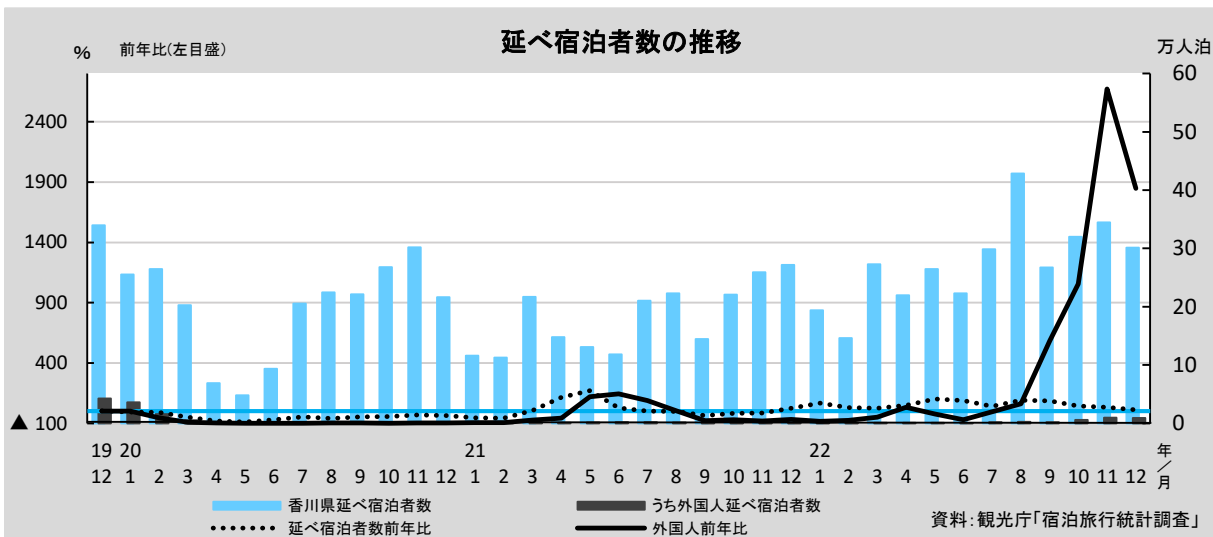
●主要観光地入込客数



| 観光地入込客数 | | 栗林公園 | | 屋島 | | 琴平 | | 小豆島 | | 合計 | |
|---------|-------|--------|-------|--------|-------|---------|-------|--------|-------|---------|-------|
| 1月(人) | 前年同月比 | 33,572 | 23.1% | 53,985 | 26.4% | 345,000 | 20.2% | 59,384 | 19.1% | 491,941 | 20.9% |

1月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+20.9%と11カ月連続で増加した。全国旅行支援延長や国際線運航再開などの効果で、栗林公園は前年同月比+23.1%、屋島は同+26.4%、琴平は同+20.2%、小豆島は同+19.1%と全てが前年を上回った。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数は301,540人で、前年同月比+10.9%と13カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲11.2%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は9,150人となり、前年同月比+1846.8%と5カ月連続で増加した。2019年同月比では▲78.6%となった。